環境省 請負業務

令和７年度
知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び
知床の魅力あるストーリー検討業務報告書

令和８（2026）年３月

環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所

報告書概要

１．業務名

令和７年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務

２．業務の目的

昨年度から知床国立公園で取組みを進めているインタープリテーション全体計画は、知床地域の自然・文化・歴史の価値を来訪者に的確かつ魅力的に伝えるためのものであり、その中心となるストーリーブックは、地域資源の意味や魅力を物語として体系的に構成し、案内や解説、教育などの各手法に一貫性と深みを持たせるために必要不可欠なツールである。

令和６年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務では、地域資源の価値を地域住民自身の視点から見出し、整理・共有することを目的に、3 地域で全 9 回のワークショップと全 5 回の作業部会を実施した。これらを通じて、地域に根差した価値を可視化するボトムアップ型のプロセスとして、地域住民だからこそ気づく魅力の発掘と、来訪者にも体験可能なストーリーのたまご（以下、ストーリー案）が生み出された。また、地域資源の価値化に向けた課題や、ストーリーの活用方法、他計画との関係性に関する議論も重ねられ、今後の展開に向けた方向性が関係者間で共有された。

これらの成果を踏まえ、本業務は、知床地域の自然・文化・歴史がもつ本質的な価値や魅力を来訪者に伝えるためのストーリーブックを策定し、それを知床エコツーリズム戦略に反映させることで、地域全体のインタープリテーションに一貫性と深みを与えることを目的として実施した。

３．業務実施体制

本事業は、環境省からの請負事業として公益財団法人 知床財団が実施した。

４．業務の実施期間

令和７(2025)年７月 1 日～令和８(2026)年３月 23 日

５．業務概要

１）ストーリーブックの策定

令和６年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務の成果物として形になったストーリー案と、同業務において行った来訪者分析の結果を基に、ストーリーブックの策定を以下の手順で行った。

① 構成案の作成

ストーリーブックの目的を明確にした上で、素材の棚卸しと整理を行い、編集方針を設定した。編集方針に基づき、ストーリーの展開や構成の流れを検討して構成案を作成し、ビジュアルについても検討を行った。構成案の作成にあたっては、素材の再整理や不足情報の洗い出しを行うため、

現地調査等により補足調査を実施した。

② ストーリーブックの作成

構成案に基づき、各ストーリーの執筆および編集を行い、あわせて視覚的な表現を検討したデザインラフを作成した。執筆したストーリーとデザイン案は相互に整合を取りながら調整を重ね、内容と表現の一貫性・分かりやすさに重点を置いた。

③ 監修者によるチェック

ストーリーの構成案やストーリーの内容について監修者によるチェックを行った。監修者の人選は、国立公園、観光戦略、地誌などの専門的視点、地域住民の視点も考慮し、信頼性の高いストーリーブックを作成するため、専門分野の異なる 3 名に依頼した。各監修者からは、それぞれ 4 回程度のチェックを受け、そのうちの 1 回は知床現地にて実施した。

④ モニター

ストーリーブックの策定にあたり、前年度の成果物であるストーリー案と今年度事業における製作物を基に、地域住民や観光事業関係者、行政を含む関係団体に対するモニターをワークショップ形式で計 2 回開催し、ストーリーブックの構成や内容、今後の活用について意見を集約した。

- 第 1 回ワークショップ　2025 年 11 月 19 日（斜里町ゆめホール知床）
- 第 2 回ワークショップ　2026 年 2 月 5 日（斜里町ゆめホール知床）

２）知床エコツーリズム戦略への反映

見直しの検討が行われている知床エコツーリズム戦略について、ストーリーブックの要素を戦略に盛り込む検討と提案を行った。提案にあたっては、適正利用・エコツーリズムワーキンググループにおいて協議されたエコツーリズム戦略の構成案と照らし合わせながら、ストーリーブックの盛り込むべき要素やその程度、場所について検討を行った。

３）業務実施計画の作成及び打合せの実施

作業内容及び業務進捗の確認等のため、環境省担当官との業務打合せを計 5 回実施した。業務開始時打合せ前に業務実施計画案を作成し、環境省担当官へ提出し、打合せを行った。

第 1 回打合せ　2025 年 7 月 24 日
第 2 回打合せ　2025 年 8 月 18 日
第 3 回打合せ　2025 年 10 月 3 日
第 4 回打合せ　2025 年 10 月 24 日
第 5 回打合せ　2025 年 12 月 18 日
第 6 回打合せ　2025 年 1 月 13 日
第 7 回打合せ　2026 年 2 月 6 日

４）報告書の作成

1）～3）について取りまとめ、報告書を作成した。

目次

はじめに.....1
第１章　　ストーリーブックの策定.....2
1.　構成案の作成.....2
2.　ストーリーブックの作成.....4
3.　監修者の設定と監修の実施.....11
4.　モニターの実施.....16
第２章　知床エコツーリズム戦略への反映.....30
1.　エコツーリズム戦略の構成とストーリーブックの関係性.....30
2.　ストーリーの反映（2-1 守り、伝えるべき知床の価値）.....32
3.　価値に基づく空間整理（ゾーニング）（3-2 ゾーン区分と価値の整理）.....32
第３章　　業務実施計画の作成及び打合せの実施.....35

巻末資料

巻末資料１　令和 6 年度知床 IP 全体計画ワークショップ成果物
「ストーリーのたまご（ストーリー案）」
巻末資料２　第 1 回ワークショップ配布資料
巻末資料３　第 1 回ワークショップアンケート用紙
巻末資料４　第 2 回ワークショップ配布資料
巻末資料５　第 2 回ワークショップ用参考資料（第 1 回ワークショップ用語集）
巻末資料６　第 2 回ワークショップアンケート用紙
巻末資料７　令和 7 年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務実施計画書
巻末資料８　業務打ち合わせ記録簿（全 7 回）

電子付録（DVD-R 収録）

1. ストーリーブック「知らないこと、知床。」
　　電子付録第 1 巻…　Adobe Indesign
　　電子付録第 2 巻…　Adobe PDF

はじめに

知床国立公園では、世界遺産地域の原生的な自然を保全しながら享受し、理解するための観光利用の方法や、より深く自然を楽しみ学んでもらうための取組み等を、地域全体で推進していくことを目的に「知床エコツーリズム戦略」を平成 24（2012）年に策定した。エコツーリズム戦略は、エコツーリズムを含む観光利用に関する基本方針であり、同戦略に基づきルール作りや新たな利用の提案が行われてきた。また、平成 30（2018）年には知床国立公園の利用のあり方に関する懇談会において知床半島の利用イメージ（ゾーニング案）も作成された。

知床では海外からの観光客数の増加や、個人やグループによるオリジナルツアーへの転換などにより、提供するプログラムやサービスも多様なニーズに対応することが求められている。これらの動きに対応しつつ、適正利用を進めていくためには、知床の利用のあり方を地域共通の認識として、ガイドだけでなく、観光に携わる関係者に浸透させることが望ましい。

近年は、地域の魅力や価値を来訪者に伝えることを目的に策定されるインタープリテーション全体計画（以下、IP 全体計画と略す。）が全国の国立公園で作られている。IP 全体計画で議論する地域の価値やストーリーは、その地域を理解する教材となり、わかりやすく地域の人や来訪者に浸透させることによって、国立公園の適正な利用に役立つものと期待されている。

本業務は、知床のエコツーリズムを取り巻く近年の状況や IP 全体計画の検討状況を踏まえ、知床エコツーリズム戦略の改定作業を進め、IP 全体計画については、計画の主要な要素の一つとなる魅力ある知床のストーリーを検討することを目的として実施した。

第１章　ストーリーブックの策定

昨年度の「令和 6 年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務」で得られた成果をもとに、知床地域の自然・文化・歴史がもつ本質的な価値や魅力を来訪者に伝えるためのストーリーブックを策定した。策定においては、構成案の検討と設定を行い、構成案に基づきストーリーブックの執筆、編集、デザインを作成した。また策定に際し、専門的な視点から構成案やストーリー等の内容を確認する監修者を 3 名選定し、ストーリーブック策定に関する助言や修正案を提示いただいた。

また、ストーリーブックの使途や活用をテーマとしたモニターを地域住民や観光関係者を対象としてワークショップ形式で 2 回開催した。ワークショップではストーリーブックの内容や表現、使途について意見交換を行った。得られた意見や課題点については、有効性・改善点を把握するとともに、今後の活用や改定に資する参考資料とした。

1.　構成案の作成

ストーリーブックの目的を明確にした上で、収集済みの素材の棚卸しと整理を行い、編集方針を設定した。編集方針に基づき、ストーリーの展開や構成の流れを検討し、具体的な構成案を作成した。構成案の作成にあたっては、既に策定されている全国各地のインタープリテーション全体計画も参照した。また、必要に応じて素材の再整理や不足情報の洗い出しを行い、現地調査等により補足調査を実施した。これらを踏まえ、構成案の内容を整理、確定させ、以後の執筆、デザイン制作、ストーリーブック編集の基礎資料とした。

１）編集方針

- 読者は、斜里町、羅臼町の地域の人（町民、観光関係者、事業者等）をターゲットとする。
- イラストや写真を積極的に活用し、誰でも手に取り読みやすい一冊とする。
- ストーリーブックの中に、活用につながるような計画要素を記載する。
- 既存の「知床エコツーリズム戦略」との関係性を意識し、策定する。

２）構成案（表 1-1）

ストーリーブックの全体構成は、以下の 4 部構成とした。

第 1 部（概説編）：インタープリテーション全体計画の説明やストーリーブックの役割を解説。

第 2 部（ストーリー編）：ストーリーブックの本体部分。昨年度ストーリー案を基に、自然、歴史、文化、産業等、地域の価値を伝えるためのストーリーを掲載。

第 3 部（計画編）：ストーリーブックを活用するためのターゲット（来訪者分析）や地域観光の状況、既存計画との関係性の整理。

第 4 部（資料編）：ストーリーブックを読み解くための参考資料や、ストーリーブックができるまでのこれまでの過程、今後の予定を掲載。

表 1-1　ストーリーブックの構成案

部	章	見出し
		表紙
第1部 概説編 ：ストーリーブックの目的と使い方		
		はじめに
		この本の使い方
		目次
		インタープリテーションとインタープリテーション全体計画とは？
		ストーリーブックの目的と構成
第２部 ストーリー編 ：知床を知り・守り・楽しむためのストーリー		
2	- 1	ストーリー1　自然と生命（1-1／1-2／1-3）
	- 2	ストーリー２　地形と景観（2-1／2-2／2-3）
	- 3	ストーリー３　歴史と文化（3-1／3-2／3-3）
	- 4	ストーリー４　暮らしと産業 （4-1／4-2／4-3）
第３部 計画編：ストーリーを活用し、伝えるための方法		
3	- 1	来訪者の分析
	- 2	インタープリテーションの活用の場とコンテンツの整理
	3	ストーリーのまとめと伝えるための5W1H
	- 4	ストーリーを活かすための協議の枠組み（既存計画の紹介）
第４部 インフォメーション・資料編：みんなで学び、伝えるシレトコのコト		
4	- 1	参考文献
	- 2	知床インタープリテーション全体計画の作成プロセス
	- 3	知床インタープリテーション全体計画の今後の予定
	- 4	索引
		奥付
		裏表紙

2. ストーリーブックの作成

構成案に基づき、各ストーリーの執筆および精緻化を進めるとともに、視覚表現を重視したデザインを検討し、ストーリーブックの編集を行った。

編集にあたっては、完結した冊子としての体裁や校正を意識し、各ストーリーとデザインが互いに補完、強化し合うよう、表現の一貫性と分かりやすさに留意した。

１）ストーリーの整理

昨年度、羅臼町、斜里町市街地、ウトロ地区の３つの地域で実施したワークショップ（各地区で計３回、全９回）において提案されたストーリー案（**巻末資料１**）をベースとし、ストーリーブックに盛り込むための整理を行った。ストーリー案の整理については、既に別業務[1]において俯瞰的な分析ととりまとめがなされており、この結果に基づき不足する要素を補いつつ、カテゴリごとのストーリー数のバランスを調整した。整理作業の結果、３つのストーリーを新たに追加した。また、４つのカテゴリ毎に３つのストーリーをぶら下げる構成とし、合計で 12 のストーリーをストーリーブックに掲載することとした。

２）ストーリーの作成

知床 IP 全体計画は、地域の人々の参加によって作り上げられる、いわばボトムアップ型の計画である。昨年度実施したワークショップでの成果物のストーリー案を最大限活用することを念頭に、ワークショップに参加した地域住民のアイデアや単語を拾い上げ、ストーリーへとまとめ上げることを重視した。そのため、昨年度のストーリー案に掲載されている単語等の要素をなるべく活かすように留意しながら、わかりやすさや親しみやすさ、さらには事実との整合性について留意しながら、12 のストーリーを起草した。

３）ストーリーブックの制作体制

ストーリーブックの制作においては、全体を調整するディレクターを中心とし、文章作成や校閲を担当する編纂チームと、ストーリーブックを編集・制作するデザインチームとで並行して作業を行った。編纂チームには、ストーリーの文案を執筆するエディターや各ストーリーのコピーを制作するコピーライターを配した。デザインチームについては、ストーリーブック全体のデザインを管理するアートディレクター、デザイン素材を製作するイラストレーター、フォトグラファーを配置した（**図 1-1**）。

[1] 環境省釧路自然環境事務所,令和７年度知床国立公園ストーリーブック作成にかかる事前調査業務

なお、設定したストーリーブックの編集方針に基づき、デザインコンセプトについても以下のように整理、設定した。

＜デザインコンセプト＞

「わかりやすく」「読みやすく」「親しみやすい」、手に取りたくなる一冊

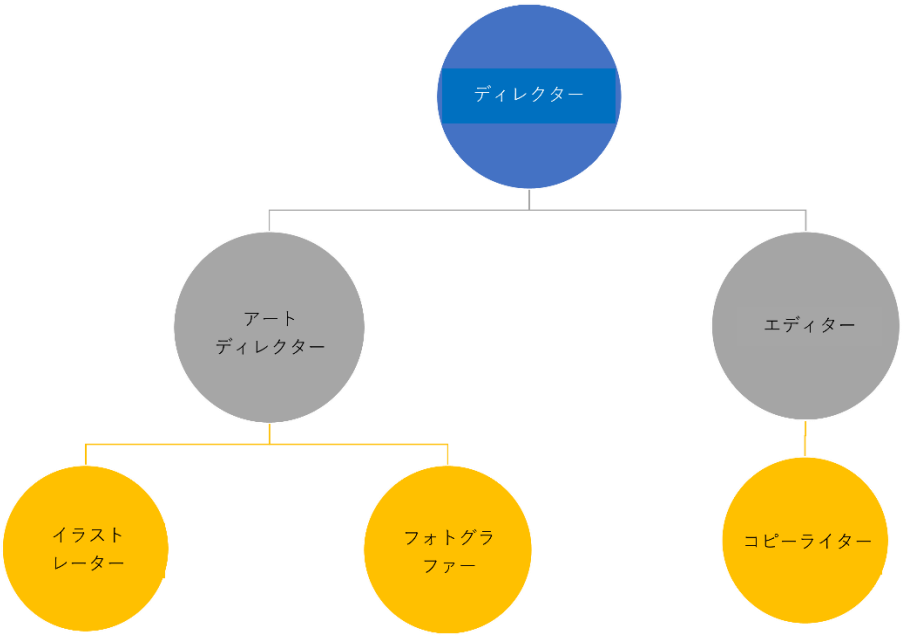


図 1-1　ストーリーブックの制作体制

４）ストーリーブックの判型と装丁、印刷仕様

作成したストーリーおよびデザインを用いて、3) で示した制作体制によりストーリーブックを制作した。ストーリーブックの判型と装丁、印刷仕様について以下を想定している。なお、判型については、ビジネス資料等に多い A4 サイズではなく、雑誌やカタログ等で使用頻度が高い変形サイズを採用した。仕上がりサイズにも細やかな配慮を施すことで、堅苦しい説明資料というイメージを払拭し、地域住民や観光関係事業者が思わず手に取りたくなるような、親しみやすく愛着の持てる装丁を目指した。

＜ストーリーブックの印刷仕様案＞

サイズ　：縦 257 ㎜×横 210 ㎜（A4 変型）
刷り色　：表紙、本文　全頁フルカラー
用　紙　：塗工紙、または微塗工紙
　　（案：表紙 ライトスタッフ GA (N) 210 ㎏／本文 ライトスタッフ GAFS90 ㎏）
製　本　：無線綴じ

ストーリーブックについては、Adobe InDesign で編集し、最終的に Adobe PDF データ（印刷用、閲覧用、ウェブページ公開用）として整理した。編集データ、PDF データについては、電子付録として DVD-R に格納した。

ストーリーブックのデザイン・レイアウト例を抜粋し、**図 1-2～図 1-5** に示す。

図 1-2　ストーリーブック（表紙）

図 1-3　ストーリーブック（表紙裏／扉）

第1部　概説編

ストーリーブックの目的と使い方

1

はじめに

知床の皆さんこんにちは。突然ですが、ご自身の町の特徴や誇りに思うコトを5個あげてみてください。さらに10個はどうでしょう。それでは今度は、隣町の特徴を10個教えてください。なかなか難しかったのではないでしょうか。

知床半島を地図で見ると、先端から知床連山に沿い点々と町境が引かれています。知床は羅臼と斜里の2町にまたがっていますが、両区間を往来できるのは知床横断道路が開通している期間だけ。山と雪が移動を妨げ、人びとの交流の深まりを難しくします。

本書は、エリアの垣根を越えて知床の価値を裏付ける物語を浮かび上がらせ、地元の人たちが知床を訪れた人たちに、分かりやすく伝えられるような「教科書」として活用してもらうことを想定しています。本書を両町のすべて町民のもとにお届けし、知床に関する理解がひろがることを目指しています。

本書の製作には、たくさんの地域の人たちの力をお借りしました。2024年度には羅臼町、斜里町の皆様にワークショップにご参加いただき、そこで磨き上げられた地域の価値や、練り上げられたストーリーの"たまご"ができました。このワークショップの成果物を基にして、本書ができています。

本書の活用が、町の皆さん、宿泊施設や飲食店、ガイドや観光案内所、交通機関などで働く多くの方々にとって、知床全体の魅力を今よりもさらに深く理解してもらい、来訪者に伝えるための「羅針盤」となれることを願っています。

環境省　釧路自然環境事務所

2

この本のつかいかた

「知らないこと、知床。」というタイトルがついた
正式名称『知床インタープリテーション全体計画』は、こうやって使っていただくと楽しいです。

その1
まず読んでみる
知床の知らないこと、知っていたけど実に知らなかったこと。いろいろ載っています。そんなの知ってた！という方は知床のマエストロです。
それは知らなかった！という方は、新たな発見おめでとうございます。

その2
人に話してみる
この本は「知床の元ネタ帳」のようなものです。観光でいらした方に知床のことをお話しするとき、実はですね…とさらに深いお話をすることができます。地域の皆さん、特に子どもたちに話して聞かせるというのも素敵ですよね。

その3
確認につかう
なんとなく知っていた知床のこと。でも、本当のところはどうだったっけ？という時に、この本を開いてみてください。次にお話しするときに、自信を持ってお伝えすることができます。

この本は、ボロボロになることがいちばんの勲章です。どんどん使って、どんどんボロボロにしてください！

おみやげもの店の方
観光客の方がそれぞれ地元に戻られて、知床がおみやげとして買られています。知床ならではのストーリーを添えて伝えてみてはいかがしょう？

ページ順に開いても、好きなところだけ開いても、どちらでもOK。栞引で気になった言葉からストーリーを読むこともできます。どうぞご自由に。使ってもらってナンボのあなのです。

飲食店やシェフの方
この本に書かれているストーリーとともに料理をご提供いただくと、より深い体験になるはずです。ぜひお客さまに一言添えてみてください。

ガイドの方
見えるものだけではないストーリーを語るプロフェッショナルのガイドの皆さんは、この本を使っていただくことはもちろん、さらにベター・な本になるようアドバイスもお願いします。

観光PRに携わる方
取材の問い合わせが来た際に、例えばこういう本がありますよとご紹介いただけたら嬉しいです。それぞれのストーリーから新たな物語が生まれるかもしれません。

3

STORY LIST

知床を知り・守り・楽しむ楽しむためのストーリー 一覧

4つのカテゴリーは、知床のありのままの自然と動植物の豊かさを捉える「自然と生命」から始まり、その舞台となる大地の成り立ちを読み解く「地形と景観」、そこに重ねられてきた人の歩みをたどる「歴史と文化」、そして現在に続く人と自然の関係を見つめる「暮らしと産業」へと展開します。

CATEGORY 1 自然と生命

流氷からはじまる海・川・森のサイクル
豊かな恵みの循環
1-1 p.12

陸のヒグマ・海のシャチ・空のオオワシ
自然の王者に畏敬し、人間の小さを実感する
1-2 p.16

人類にとって不可欠な「ありのままの自然」の存在
地球は誰のものか気づかせてくれる場所
1-3 p.20

CATEGORY 2 地形と景観

火山活動により海底から隆起した山々
その軌跡を自らの足で確かめる
2-1 p.26

火山が生み出した奇跡のアクティビティ
「カムイワッカ滝ノ滝のぼり」
2-2 p.30

知床の急峻な地形が生み出す絶景と強風
人間の干渉に新え野生を呼び覚ます
2-3 p.34

CATEGORY 3 歴史と文化

オホーツク人、アイヌ文化、漁師衆士…
力強く、しなやかに生きてきた人々の軌跡
3-1 p.40

厳しい自然の中で「りょう」を生業とする
漁師と猟師の誇りと生命力
3-2 p.44

人間が開拓した土地を、原生の森に戻す
「しれとこ100平方メートル運動」
3-3 p.48

CATEGORY 4 暮らしと産業

知床の生命のサイクルとつながる
海の幸と山の幸を味わう贅沢の贅沢
4-1 p.54

旅人と地域の人々が出会う温泉めぐり
暮らしや地質・風土を肌身で感じる
4-2 p.58

遥か昔から続く四季折々の特徴的な暮らし
訪れるたびに知らない体験ができる
4-3 p.62

8

9

図 1-4　上段：ストーリーブック（P.2 はじめに／P.3 この本の使い方）
下段：ストーリーブック（P.8-9 STORY LIST）

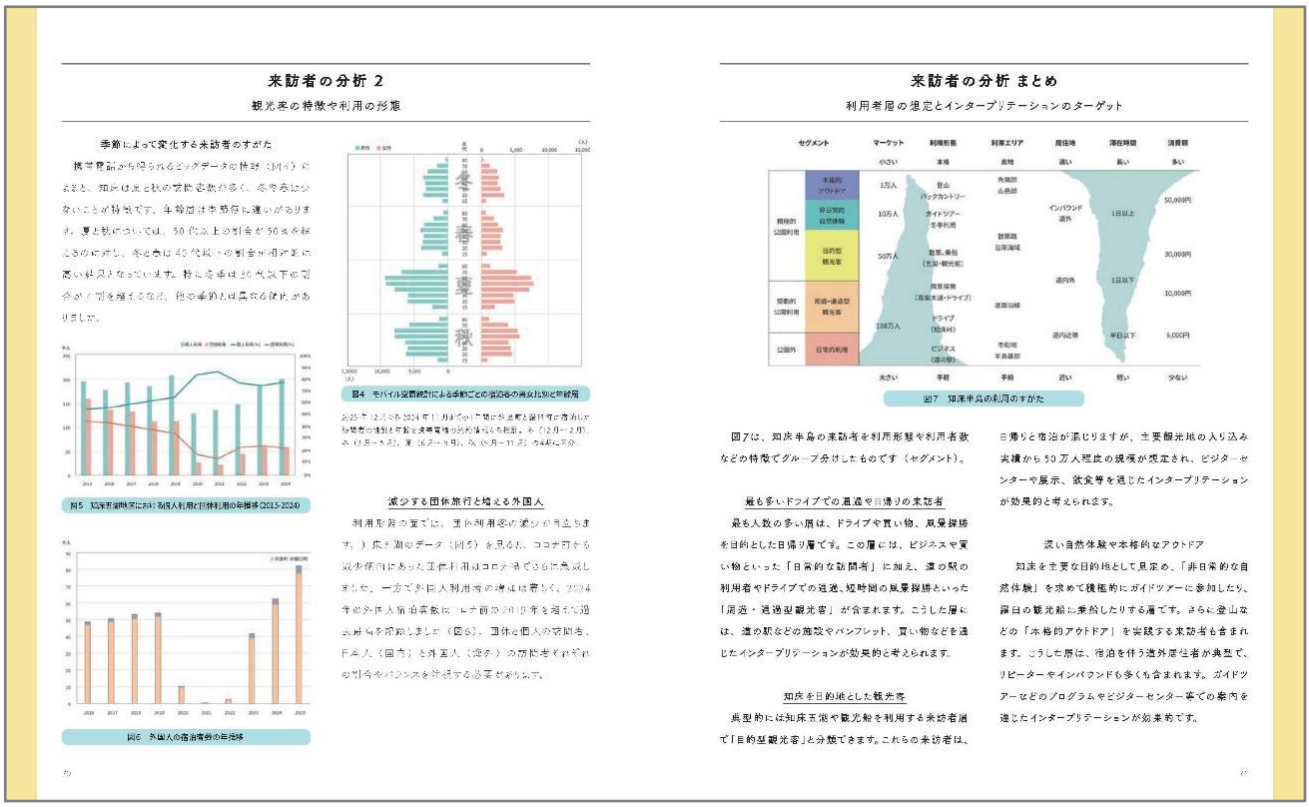


図 1-5　上段：ストーリーブック（P. 70 来訪者分析／P. 71 まとめ）

下段：ストーリーブック（P. 76-77 ストーリーを活かすための協議の枠組み）

3. 監修者の設定と監修の実施

ストーリーブックの構成案や内容の作成にあたっては、監修者による助言とチェックを得ながら進行する体制を整備した。監修者は、多角的な視点で、より信頼性の高いストーリーブックを作成するため、専門分野がそれぞれ異なる 3 名に依頼した。なお、監修者に対しては、仕様書の定めに準じ、謝金の支払いを行った。

１）監修者の役割とプロフィール

本業務において、以下の 3 名を監修者に選定した。選定に際しては、全国的な先進事例の反映、地域固有の価値の深掘り、および効果的な情報発信という 3 つの側面から選定し、バランスの取れた体制を構築した。

川嶋 直 氏：全国各地の国立公園におけるインタープリテーション全体計画策定の豊富な監修実績に基づき、計画全般の監修を行う。

＜プロフィール＞

川嶋直事務所代表。公益社団法人日本環境教育フォーラム主席研究員。

1953 年東京都生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後、1980 年山梨県高根町（現：北杜市）清里のキープ協会で勤務。「自然体験型環境教育事業」を組織内で起業。

立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科特任教授（2005～2010 年）、同 ESD 研究センターCSR チーム長（2007～2012 年）などを歴任。2010 年公益財団法人キープ協会役員退任後は、「KP 法」「えんたくん」などのファシリテーションの技術を駆使して企業研修、セミナー、ワークショップなどを行う。全国各地のインタープリテーション全体計画にも深く関わっている。

中川 元 氏：知床在住の専門家として、現地の自然環境や環境資源に関する学術的・実地的な知見を反映させる。

＜プロフィール＞

公益財団法人知床自然アカデミー業務執行理事。

1950 年札幌市生まれ。北海道大学農学部卒業。斜里町立知床博物館、知床自然センター勤務ののち、1995 年から知床博物館長を務める。鳥類の生態、野生生物の保護管理等を専門分野として研究。知床の自然について全 10 巻でまとめた書籍『知床ライブラリーシリーズ』の執筆、編集も務めた。知床の自然的、歴史的価値について深い造詣を持ち、現在は自然環境教育の場の創出に取り組む。

初海 淳 氏：コピーライターおよびブランディングの視点から、知床（斜里町）の魅力発信や効果的な訴求方法について助言を行う。

＜プロフィール＞

なみうちぎわをあるこう合同会社代表。

1967 年横浜市生まれ。1992 年より JTB コミュニケーションデザイン株式会社（JTB グループの広

告会社）で勤務、「感動のそばに、いつも。JTB」などのブランドスローガンを担当。2015 年から北海道斜里町の知床ブランディングに携わり、知床ブランディングのクリエイティブ・ディレクターとコピーライターを担当し、「知床トコさん」の制作や「SHIRETOKO! SUSTAINABLE」プロジェクトを牽引した。2022 年より同町へ移住し、地域プロジェクトマネージャーとして現在は横浜市と斜里町の 2 拠点で活動中。

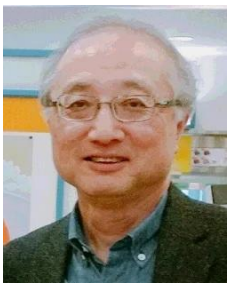


写真 1－1　左：川嶋　直／中：中川　元／右：初海　淳

２）監修の実施

監修者からは、ストーリーブックの作成に際し、以下の監修項目について、それぞれ適したタイミングにおいて合計 4 回の監修を受けた。

① 昨年度作成のストーリー案（監修期間：2025 年 9 月）
② 今年度のストーリーブック構成案（監修期間：2025 年 10 月）
③ ストーリーブックのデザインラフ案（監修期間：2025 年 12 月～1 月上旬）
④ ストーリーブックの内容全体（監修期間：2026 年 2 月～3 月上旬）

4 回の監修のうち 1 回（2025 年 11 月 19 日）については斜里町現地で監修者 3 名による合同の監修を実施した。また、知床へ訪問経験が少ない川嶋氏に対しては、同日に現地視察を 1 回実施した（**表 1-2**）。

表 1-2　監修者（川嶋氏）の知床現地視察行程表（2025 年 11 月 19 日）

<table>
<tr><td rowspan="2">9:00</td><td>斜里町ウトロ・知床自然センター着</td></tr>
<tr><td>①　施設案内（知床自然センター・100平方メートル運動ハウスなど）</td></tr>
<tr><td>10:00</td><td>②　知床国立公園視察：知床五湖方面</td></tr>
<tr><td rowspan="2">11:00</td><td>③　ウトロ市街地視察：遺産センター／道の駅など</td></tr>
<tr><td>④　国道沿いの景色視察（ウトロ⇒斜里）</td></tr>
<tr><td>12:00</td><td>⑤　昼食　※斜里町内の飲食店視察を兼ねる</td></tr>
<tr><td>13:00</td><td rowspan="2">⑥　斜里市街地視察：知床博物館／道の駅しゃりなど</td></tr>
<tr><td>14:00</td></tr>
<tr><td>15:00</td><td>移動（ワークショップ準備等）</td></tr>
<tr><td>16:00</td><td rowspan="2">知床IP全体計画モニター「ワークショップ」開催
（場所：ゆめホール知床）</td></tr>
<tr><td>17:00</td></tr>
<tr><td>18:00</td><td>知床IP計画監修者打合せ</td></tr>
</table>

３）監修者からの主な意見

3 名の監修者による意見について、トピックごとに整理し、以下に列記した。なお、第 2 部のストーリーの内容に関する意見については、制作過程においてそれぞれ 3 名から詳細な意見を受け取っているため、ストーリーブックへの反映をもって意見集約とした。

<u>昨年度ストーリー案を踏まえたストーリーブック全体に関する意見</u>

- 昨年のストーリー案を見ていて、住んでいるからこそ出てくるコンテンツだと感じた。例えば、気象のことである。ルサの強風や霧など、これらは今まで観光資源として考えられていなかった事象。また、夏の知床半島は、斜里側はとても暑くなるが、羅臼は霧で寒いなど、こういった現象は、知床半島の火山の地形、半島の角度（北東）などからくる東西の気象の違いであり、日常で感じていることもストーリーになり得る。

- インタープリテーション全体計画は、地域ごとに作り方が様々でよい。知床は知床らしいものを目指すべき。
- 一度に詰め込まない事を留意する。今回の冊子の働きは、「ひろくあさく」知ってもらうことである。地域のみんなが「面白い」「やってみよう」、とその気になるカタログになると良い。
- 例えば、次年度は羅臼だけで 1 冊、自然だけで 1 冊、など分冊版として派生していく基になるものが今年度作る一冊、というところに観点を置くことが大事である。
- 今年度の目標は①冊子を作ること、②地域のチームをつくること、の大きく 2 つではないか。また、2024 年度関わった人を上手に巻き込む、地域のファシリテーターをつくる、という事も重要である。
- みんなが使いやすいストーリーを厳選すればよい。地域の価値の全てを網羅しようとするのは無理である。
- ストーリーは、カテゴリにこだわるとストーリーとして読みづらいものになるあまりカテゴライズにこだわらず、作るのが良い（カテゴリはオーバーラップするもの）。
- 索引はあったほうがいい。QR コードを活用するのもよい。
- イラストの力は大きい。雲仙は 2 年間、地元で農家さんを取材しながら描いていた人をイラストレーターとして起用した。仕上がりのクオリティを重視するよりも、土地に居る人々をどうやって巻き込んで作るか、がポイントと思う。
- ストーリーブックが出来上がった後は、その冊子が生きているもの、機能しているもの、ということが大切。作って終わりにならず、活用されるための工夫が必要。昨年度のワークショップに関わってきた人が、また関わってくれたら、自分のものになる。積極的に参加してくれた人と、少し一緒に考えたりする場ができるとよい。
- 今後、ストーリーブックが完成したのちには、PDF データ等で共有され、単語でストーリーの検索などができるようになると良い。

ストーリーブックの構成案に対する意見

- この冊子の読者は、地域のすべての住民だと思うが、その中でも「コア・ターゲット」は、来訪者と接する可能性のある（高い）方たちと想定する。そのあたりのニュアンスをサブタイトルなどに表現出来れば、この冊子を手にした人が「自分はメインターゲット」なのか、「サブターゲット」なのか、読む前提を作れると考える。
- タイトルが「ストーリーブック」となってるが、「ストーリーブック」と書くことで「ストーリー」がこの冊子のメインで、同時にストーリーを伝えることがインタープリテーションのゴールであるような印象を与えてしまう可能性がある。その事自体は間違いではないが、対象者別に「何を(WHAT)＝これがストーリー」「どのように(HOW)＝ターゲットに合わせた伝え方」、さらに「いつ・どこで・誰が」伝えるのか等のコミュニケーション戦略も重要である。この観点を冊子全体で伝えることができればよいと思う。

- 第 1 部の「ストーリーブックの目的」や「IP 全体計画の説明」は、地域の人たちにとって、これまで聞いたことの無い、難しい説明になってしまうので、イラストなども加えて、できるだけ平易に表現することが大事である。
- 第 1 部の「ストーリーブックの対象や活用方法」については、イラストも使いながら具体的な使う場面を示している他地域の事例が分かりやすい。これらの前例を上手に参照して知床ならではの地域の皆さんの関わりについて示すのがよい。
- 第 2 部のストーリーへつなげる扉部分は、そのあとに続く４つのテーマ＆１２のストーリーについてなぜ「資源そのもの」を伝えるのではなく「ストーリー」が大事なのか、について、しっかり、かつ端的に伝えるべきところと考える。この冊子が個々の資源（自然・歴史・文化・あるいはそれらが重なった資源）の詳しい情報ブックではなく、そうした資源の背景にあるストーリー（物語）こそが、来訪者にとって印象深く記憶に残るものであることを伝え、だからこそここでは 12 のストーリーを整理したことを伝えるべきかと考える。
  例えば、「知床のストーリーは 12 に留まらず、数え切れない程のストーリーがあるが、今回整理したストーリーはその代表的なもの、知床の皆が共有できるものをまとめた」と書いても良いと思う。
- 第 3 部、第 4 部については、ターゲット毎に「響く」体験プログラムを考え、ターゲット毎の「課題・展望」とともに、「今後の可能性」についても言及して欲しい。そもそものターゲティングを把握するときに「今来ている層」だけではなく「これから来て欲しい層」についても、その可能性を検討して欲しいと思う。
  なお、先見事例として「雲仙温泉地区インタープリテーション全体計画」の 57 から 62 ページが参考になるだろう。
- 第 4 部「今後の予定」については、この冊子の読み手からのフィードバック＝改定版への反映などへの道筋が見えるような表現ができれば、なおよい。
- 第 4 部「索引」については、簡単な用語集のようなものもあるとよいと思った。例えば、「インタープリテーション」や「インタープリテーション全体計画」については第 1 部で書いているものの、数行で説明した場合の例を用語集に記載できればより丁寧である。

4. モニターの実施

ストーリーブックの内容や表現に対する有効性、改善点を把握し、今後の活用や改定の検討に資する意見集約を行うためのモニターを地域参加型のワークショップ形式で実施した。ワークショップは計 2 回実施し、1 回目は「ストーリーブックの活用方法の検討」、2 回目は「ストーリーブックの最終構成案の検討」の 2 つのテーマを設定し、ストーリーブックの編集や今後の活用の参考とした。

ワークショップ開催にあたっては、昨年度から知床 IP 全体計画のためのワークショップに関わってきた地域住民等を中心に参加を募り、さらに観光事業者（ネイチャーガイド、観光協会、行政観光担当等）にも積極的に声がけを行った。

１）第 1 回ワークショップの実施概要と結果

<u>実施概要</u>

日　時 ：2025 年 11 月 19 日（水）16:00～18:00
場　所 ：斜里町ゆめホール知床
テーマ ：「知床 IP 全体計画（ストーリーブック）の活用方法の検討」
参加者 ：26 名
（高校生、町職員、ガイド、地域おこし協力隊、ホテルスタッフ、地域住民など）
運営関係者：ファシリテーター（川嶋）1 名、監修者 2 名（中川・初海）、
知床財団 6 名、環境省 5 名

表 1-3　第 1 回ワークショップのタイムスケジュール

時刻	内容	担当
16:00	開会・趣旨説明（知床 IP 全体計画の目的と全体構成について）	知床財団・環境省
	ミニレクチャー　（巻末資料２）	
16:20	（IP 全体計画について・知床の価値について・観光ブランディングとは）	川嶋・中川・初海
	フリートークタイム（質疑応答）	
17:00	グループ分け・自己紹介・作業説明	川嶋
17:20	ワークショップ（活用方法について）	川嶋
17:45	全体共有・振り返り	川嶋
18:00	閉会	知床財団

内容と結果

第 1 回ワークショップは、今年度作成する「ストーリーブック」の今後の具体的な活用方法について、地域住民の視点から多角的なアイデアを得ることを目的として実施した。ワークショップの資料として、前年度、地域参加型のワークショップにより作られた「ストーリー案（9 つのストーリーのたまご）」を参照しながら、所属や属性が様々な参加者から多様な意見を集約した。ワークショップのグループについては、議論の多角化を図るため、参加者の所属や属性が重複しないよう配慮した混合編成によるグループ編成を行った。

グループワークでは、ブックの配布先や活用方法について議論を行った。参加者が A5 用紙にアイデアを書き込み、会場の壁面に掲示して可視化する手法を採用した。

ワークショップの終盤では、掲示された全てのアイデアをファシリテーターが読み上げ、全体で共有を図った。

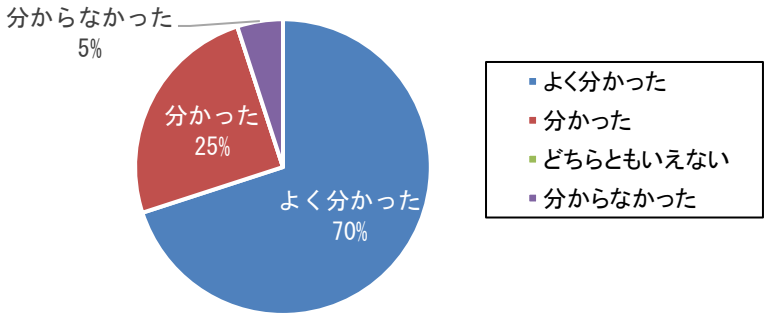
写真 1-2　第 1 回ワークショップの様子

実施後のアンケート結果

ワークショップ終了後、参加者に対して実施したアンケート結果を以下に示す（**巻末資料３**）。

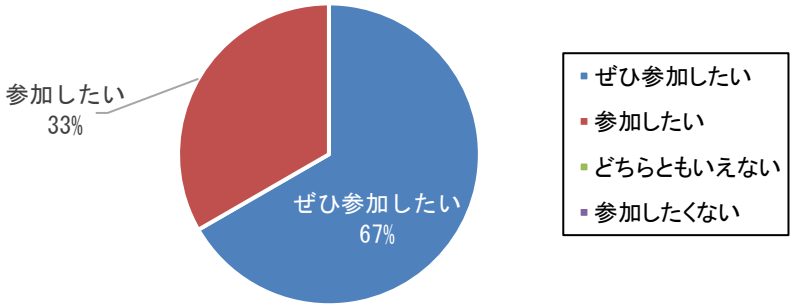
問 1. 知床 IP 全体計画について理解できましたか？

（知床 IP 全体計画についての理解度）



問 2. 今後、このようなワークショップがあった場合、参加されたいですか？

（ワークショップへの満足度）



問 3. ワークショップの内容と進め方に関して改善点、気になった点などはありますか？

（自由記述）

- ファシリテーター（川嶋氏）のトークにひきつけられた。全体像が見えてきた。
- 事前にアジェンダを公開して欲しい（効率化のため）。
- とてもわかりやすく楽しい時間だった。
- ファシリテーター（川嶋氏）の話がおもしろい。
- もう少し会話の時間が長いとよい。
- IP 計画の目的について、参加者にもっとしっかり理解してもらうタイミングがほし

かった。

- 進行はすばらしい。活用方法の議論は「冊子自体の活用」と「冊子以外の更なる活用」の 2 つに分けて議論したほうが良かったのでは、と感じた。
- わかりやすく眠くならないペースで Good！
- 時間がたりない。運営・満足度,おもしろかった。さすがの構成。
- 「観光」に直接携わっていない方々の参加がもう少し多いと、多様性が出たのではと感じた。
- 楽しく進められた。
- 進行のテンポが良くて時間があっという間に過ぎました。
- 自然な流れで組み合わせをシャッフルしたのがよかった。
- 楽しく学ぶことができた。
- 過去 4 回知床 IP 全体計画のワークショップに参加しているが、今回が一番分かり易かった。ファシリテーター（川嶋氏）の力が大きいと思う。
- 楽しくできたので良いが、講義がほとんどだったので考える時間が少なかったようにも思う。

問 4. 今後、ストーリーブックをどのように活かしてほしいでしょうか（自由記述）

- 本当の「地元の人」(出身者)達に読んでもらって、交流をするのに役立てたい。
- 地域の人が進んで続きを書けるような「分冊版」のような工夫。
- 地元の人に知ってもらうきっかけ。ばらまき配布より継続性を組み立てる。
- 地域の人（特にワークショップ未参加者）が知床の魅力に気づくきっかけにする。
- 小学生、中学生、親、そして地元の人たちに読んでほしい。
- 観光客はもちろん、地元の方が参加・普及しやすいよう、風の人と土の人のバランスを大事にする。
- 地元の魅力を再認識するための道具。当り前が非日常であることをわかる人を増やす。
- 学校教育の場で、地域の子供たちが地元のことを理解できるように活用する。
- ストーリーブックをきっかけに地域の魅力を再認識し、発信できる物事を増やす。
- 農業・漁業者が地元の素敵な場所や魅力を再発見できるように役立てる。
- 観光に携わる人が熟読し、自分の自慢として来訪者に伝えられるようにする。
- お客様に対し、これが知床の力ですと体験してもらえるコンテンツを考えるきっかけにする。
- ウェブサイトや都会への PR に活用する。
- 広く長く愛され、活かされるものになるように。
- 行政・観光業以外の人にいかに親しまれるかが勝負。
- いろんな所でたくさん活用してほしい。

- 内容をぜひ充実させてほしい。
- 内容をぎっしり詰めつつも、知床が初めての人にも分かりやすくする。
- 映像化を検討してほしい。
- 会場の意見を参考にしつつ、可能であれば英語版も作成する。

問 5：その他、ご自由にご意見をお聞かせください（自由記述）

- 個人の気づき,参加しただけで初めて知ることもあったし、考えることもあってよかった。普段あまり考えないことも考えられた。
- ポイントはどう使うか。その結果のリサーチも必要。どんどん進化させられる体制が必要。
- 高校の授業で何か活用できるかな、と考えるきっかけとなった。
- ブック完成前、内容が固まってきた段階でこのような地域のワークショップや交換の場があれば良いと思った。
- 「つくっておわり」にならないような仕掛けを考えていくべきだと思う。
- ファシリテーター（川嶋氏）の話しが凄く面白く、また大変勉強になった。
- 初対面の人と話しながら進めるのは難しかったが楽しかった。
- 良いブックができることを期待している。
- 勉強になった。
- 楽しかった。今後形になるのが、より楽しみになった。

２）第 2 回ワークショップの実施概要と結果

<u>実施概要</u>

日　時　　：2026 年 2 月 5 日（木）14:00～17:00
場　所　　：斜里町ゆめホール知床
テーマ　　：「知床 IP 全体計画（ストーリーブック）の最終構成案の検討」
参加者　　：17 名（町職員、地域おこし協力隊、地域住民など）
運営関係者　：ファシリテーター（川嶋）1 名、監修者（初海）1 名、
　　知床財団 7 名、環境省 4 名

表 1-4　第 2 回ワークショップのタイムスケジュール

時刻	内容	担当
14:00	開会・趣旨説明（知床 IP 全体計画の検討経緯と本日の流れ）	知床財団/環境省
14:20	・知床 IP 全体計画とは（巻末資料４） ・ストーリー案の紹介 ・フリートークタイム（質疑応答）	川嶋 知床財団
15:00	グループ分け・自己紹介・作業説明	川嶋
15:30	屋台形式によるワークショップ 4 つのテーマ（全体構成、ストーリーについて〈前半・後半〉、普及・活用アイデア） について意見集約	川嶋 知床財団
16:45	全体共有・振り返り	川嶋
17:00	閉会	知床財団

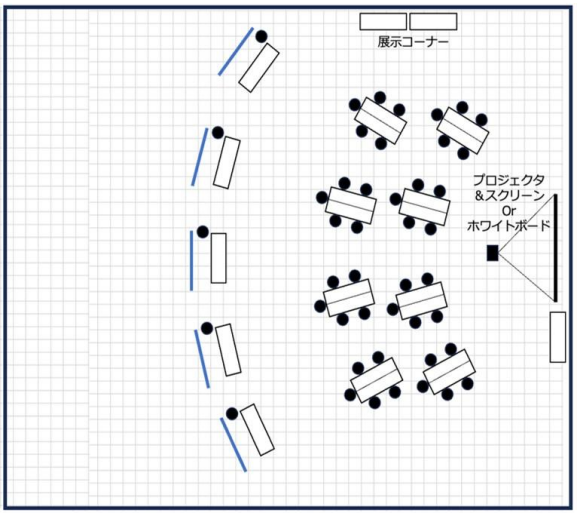


図 1-6　配席イメージ

内容と結果

第 2 回ワークショップは、知床 IP 全体計画の核となる「ストーリーブック」の構成案および内容に対し、地域住民の意見を集約し、制作物への反映を検討することを目的として開催した。ワークショップの実施にあたっては、単なる意見集約にとどまらず、地域住民自らが制作過程に参画することで、完成後のストーリーブックに対する当事者意識を醸成し、それぞれの主体的な利活用を促すことを期待し、企画している。

また、議論の多角化を図るため、参加者の所属や属性が重複しないよう配慮した混合編成による 6 グループを構成し、実施した。

グループワークでは、事務局が提示したストーリーブックの構成案に対して意見を募る「屋台形式（ポスターセッション形式）」を採用した。それぞれの「屋台」では以下の 4 つのテーマについて活発な意見掲出および意見交換が行われた。なお、参考資料として第 1 回のワークショップで参加者から抽出されたワード一覧も共有した（**巻末資料５**）。

1. 全体構成について
2. ストーリー案（前半）
3. ストーリー案（後半）
4. 普及・活用アイデア

グループワークの最後には、各テーマで出された意見を全体で共有する時間を設け、地域全体の共通認識として集約を図った。また、地域住民から「知床の魅力を伝えるために、自らが所有する写真を提供したい」といった具体的な協力の申し出や、事務局への激励が寄せられた。

写真 1-3　全体説明・グループ分けの様子

写真 1-4　グループワーク・全体共有の様子

表 1-5(1)　第 2 回ワークショップの参加者からの意見

カテゴリ	参加者からの意見
全体構成	・文字サイズや用語の難易度への配慮が必要 ・「はじめに」から開始する一般的な構成ではなく、冒険心をくすぐる仕掛けや問いかけ方式を採用し、読者の想像力を刺激する工夫を凝らす ・地域住民向けと観光客向けで内容を分ける ・ストーリーという言葉が溢れているため、タイトルにはあえて別の表現を検討してほしい ・ヒグマとの距離感やゴミ問題、流氷の上等の注意喚起的要素を取り入れ、マナー啓発に繋げる ・内容の記述が斜里側に偏っている ・地域の方々のコラムがあると良い ・冊子のサイズは A4 より小さくしても良いのでは ・フォントの変更を検討してほしい ・地図（MAP）を挿入して位置関係を分かりやすくしてほしい
ストーリーについて	<u>**1. 自然と生命（生態系）**</u> ・海、川、森の繋がりを強調し、シマフクロウなどの象徴的な生き物を記述に加えてほしい・冬の流氷だけでなく、通年で見られるオオワシや、季節ごとの命の循環を丁寧に描いてほしい ・「人と動物との距離感」や「共生・共存」に向けた地域の取り組み（ヒグマ教育等）を具体的に紹介してほしい ・目に見えない植物プランクトンなどは、イラストを用いて視覚的に分かりやすく説明してほしい・知床ならではの野鳥（ギンザンマシコ、ノゴマ等）のイラストや、ダイナミックなシャチ・クジラの写真を活用してほしい ・「流氷」を起点とした命の循環をより強調すべき <u>**2. 地形と景観**</u> ・知床五湖や遠音別川の成り立ち、火山活動と地質の関係について、より深く踏み込んだ解説をしてほしい ・「海抜 0m の高山」という表現の補足や、硫黄採掘の歴史遺構などの文化的背景にも触れてほしい ・羅臼の朝陽とウトロの夕陽など、半島両岸で異なる景観の対比を明確にしてほしい ・「雪壁ウォーク」や「森の樹氷」といった厳しい自然環境を象徴する写真のほか、荒天時の景色や、生命の終わりを感じさせる「シカの死骸・倒木」など、知床のありのままの姿を掲載してほしい

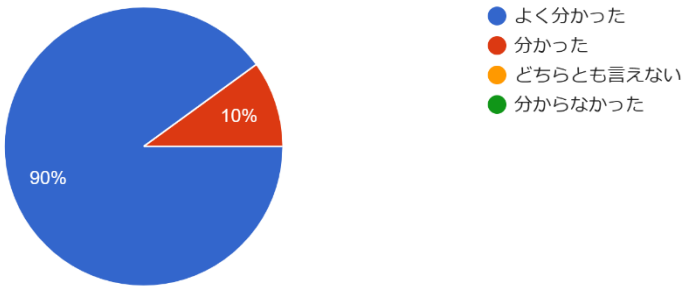
表 1-5(2)　第 2 回ワークショップの参加者からの意見

カテゴリ	参加者からの意見
ストーリーについて	**3. 歴史と文化** ・本州から伝わった近代の歴史に加え、江戸時代以前の近世や、羅臼独自の「トビニタイ文化」についても言及してほしい ・地名のアイヌ語由来を整理し、歴史的な重層性を表現してほしい **4. 暮らしと産業** ・漁業の現場（羅臼の昆布漁や船上の様子）について、従事者の誇りや暮らしの息遣いが伝わる内容にしてほしい ・「羅臼温泉」や「熊の湯」の歴史、住民にとっての温泉文化の重要性を加筆してほしい ・漁師が実際に作業している船上の様子や、昆布干しの風景など、従事者の暮らしの息遣いが伝わる内容にしてほしい
普及・活用	・全戸配布や学校教材としての活用を期待 ・ストーリーから実際のアクティビティへと繋がる自然な導線を構築してほしい ・ストーリーを基盤とした新たなアクティビティ開発を徹底してほしい ・漁師や猟師の暮しに触る体験会など、ストーリーを五感で体感できる場を設けてほしい ・宿泊施設の客室へ設置し、宿泊割引などの特典と連動した施策を検討してほしい ・教育および人材育成への活用 ・大学生の受け入れやインターンシップの際、本ブックをベースとした発表や提案の材料として活用してほしい・地域おこし協力隊の募集時や、着任後の地域理解を深めるための説明資料として活用してほしい ・「町民知床マニュアル」として、地域住民が知床を深く理解し、自ら語れるようになるための教材にしてほしい ・デジタルおよびメディアとの連携 ・誌面に二次元バーコードを掲載し、本を読み慣れていない層に向けてストーリーを補完するミニ動画（ショートムービー）へ誘導してほしい ・各ストーリーのポイントを簡潔に紹介する動画コンテンツを制作してほしい ・広報および配布方法の工夫 ・都心部のアンテナショップ等にフリーペーパーやインテリアブックとして設置し、知床のブランディングに繋げてほしい
普及・活用	・具体的な活用方法は、状況に応じて柔軟に変更・追加できるよう「別紙差し込み」のスタイルを検討してほしい ・二次元コードで動画や詳細データへ誘導してはどうか
その他	・写真提供が可能 ・納期まで頑張ってほしい

アンケート結果

ワークショップ終了後、参加者に対してアンケートを実施した（**巻末資料６**）。結果を以下に記載する。

問 1. 知床 IP 全体計画についてあてはまるものを一つ選んでください。



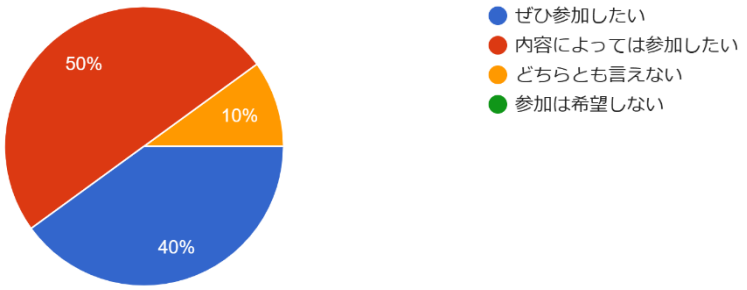
問 2. ワークショップの内容と進め方に関して、改善点など気になった点があればお聞かせください（自由記述）。

- IP の言葉事態が初めて聞くものだったので、最初に説明を挟んでいただけたのは助かりました。
- 難しいとは思いますが、地元の事業者をもっと巻き込んでいって下さい。
- ざっくばらんにみなさんと話せてアイデアも出しやすくよい雰囲気だった。ファシリテーターの先生や運営のみなさんにときどき入ってコメントやヒントをいただけたらさらによかったかもしれない。
- 時間はたっぷりとってもらったが、検討するボリュームがかなりあったので前半は短くてよかったと感じた。
- 現状で満足。
- 初めてだったので特にない。
- 今回は良かった。
- 資料を読み込むための時間が足りなかった
- 改善点ではないが、「グループワーク後のグループごとの発表」がない点がよかったと感じた。「まとめなくては！」というプレッシャーがなく、意見を出しやすかった。

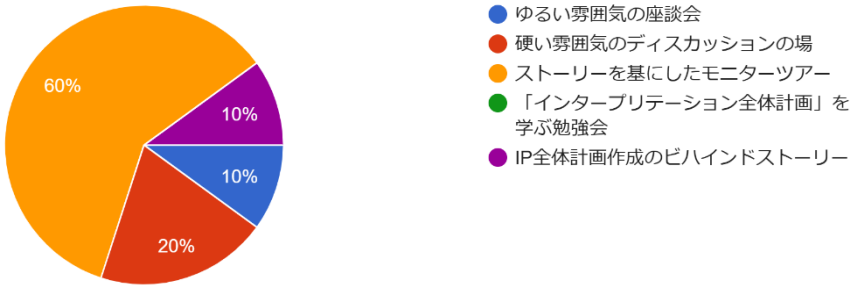
問 3. ストーリーブックが有効活用されるために、あなた自身が協力できることはありますか？あるいは地域での活動にどのように活かせるでしょうか。アイデアや意見があればお聞かせください（自由記述）。

- 全体計画を用いて、センターでの案内業務などに役立てたい。
- ストーリーブックの内容を取り入れたガイド活動。民宿でのゲストとのミーティングでの活用。
- 羅臼山岳会の活動を STORY のひとつとして協力できるかもしれない。
- 地域おこし協力隊の募集や移住相談会、また新入社員の研修でもテキストとして多いに活用できそう。
- 写真のご提供が可能です！
- どんどん渡っていくようにします。
- ホテルに設置（ロビー、客室）、セールスツールとしての利用
- 全国の図書館に置いてもらう，データ閲覧が見やすい。
- 口コミ。地元の飲食店や理髪店、病院、銀行等の施設の待合室に置く。
- トークイベントの開催や店頭での紹介、SNS での発信など、お客さまに向けて様々な形で発信することであれば自分にも協力できると感じます。ブックはデザインも美しく、モノとして手に置いておきたくなるようなものに仕上がりそうなので、ストーリーブック自体を販売できるといいな、とも思いました。

問 4. 今後、このようなワークショップがあった場合、参加されたいですか？



問 5. 今後、知床 IP 全体計画をテーマに実施されるイベントで、以下の選択肢のうちどのようなものに参加されたいと思いますか。



問 6. その他、ご意見ご感想があれば、お聞かせください（自由記述）。

- 自然の楽しみ方として、原生林の散策(追記)を提案したら、それはタブーと言われました。が、言葉を変えてでも、今実際に通年で人気のガイドツアーにもなっている森歩きは加えて欲しいです。「獣道歩き」なら大丈夫？
- 初めて見聞きする内容だったので面白かったです。今回は趣旨を理解するのに精いっぱいだったので、初めの頃から参加できていればより理解できて楽しかったかもなぁ、と勿体なく感じました。次もこういったワークショップがあれば参加させてもらいたいです。開催ありがとうございました。
- 環境省や財団や関係者の方が多かったので、飲食店の方や先生、それこそ地域おこし協力隊はみな参加してもよかったなと思いました。作成、頑張ってください！
- なまら愉しかったです！！
- 後から思い出しましたが、イベントの歴史についても触れてみたらどうでしょう？オーロラファンタジー、番屋祭、流氷フェス、熱気球、斜里花火、など
- 良いものが出来上がることを願います。
- 今回が一番判り易く、全体像をイメージできてよかったです。
- 11 月頃に開催された WS よりも今回は内容が難しかったが、色々な方とお話しすることができ、楽しかった。ありがとうございました。
- 過去の回は一部しか参加できておらず久しぶりの場でしたが、参加してよかったです！環境・自然系のお仕事をされている方が多かったので、少し違う視点から意見を出せたらいいなと思いながらのワークショップでした。ほんの少しでもお役に立てていたら嬉しいです。完成を楽しみにしています！

３）モニター結果に基づく今後の運用・活用への提案

ワークショップおよびアンケートを通じて得られた知見を整理し、知床 IP 全体計画およびストーリーブックが「地域に根ざした生きたツール」として機能し続けるための留意事項を以下の 4 軸で提案する。

「つくって終わり」にしない継続的な仕組みづくりと運用体制の構築

地域体制の構築：

ストーリーブックの完成をゴールとせず、内容の更新、追加、または分冊化を実現させるための地域体制を検討する。

配布方法の工夫：

全戸配布を行う場合、単なる「ばらまき」ではなく、内容を深く理解してもらうための配布方法の工夫や、継続性を組み立てる必要性。

対話の場の継続：

ストーリーブックの「自分事化」を促進するためのコミュニケーション継続を行う。成果を急ぐ「議論」ではなく、多種多様な立場の人がざっくばらんに意見を交わせるコミュニティの場を定期的に設定し、地域内のストーリーブックのファン層を維持、拡大する。

地域への浸透と実装

教育現場との連携：

小中高校の授業での活用等の検討。「地域の子供たちが地元の誇りを再認識する副読本」としての役割の付加も検討する。

多様な層の巻き込み：

観光業以外の一次産業（農業・漁業）従事者や、地元住民への普及を促進するため、生活動線における戦略的接点づくりを検討する。例えば、飲食店、病院、銀行、図書館など、地元住民が日常的に利用する施設へのストーリーブックの設置を検討する。

多角的なアウトプットへの展開

デジタル・映像化：

読み手のターゲットの拡大、あるいは活用の効率化を図るため、「映像化」や「ウェブサイト活用」を検討する。

英語版の作成：

インバウンド対応を視野に入れた英語版の作成を検討する。

第２章　知床エコツーリズム戦略への反映

本章では、現在策定が進められているストーリーブックにおいて抽出された知床の潜在的な価値とストーリーの要素を、地域の観光・適正利用の基本方針である「知床エコツーリズム戦略」に反映させる検討を行った。具体的にはエコツーリズム戦略の構成案を提案し、ストーリーブックに盛り込む場所やその要素の検討を行った。

1.　エコツーリズム戦略の構成とストーリーブックの関係性

知床世界遺産地域管理計画の見直しに伴い、エコツーリズム戦略がその下位計画として位置づけられたことを踏まえ、戦略の役割（価値の共有、利用の方向性の提示、具体的方策の指針）を明文化するための構成案の作成を行った。見直しにあたっては、「価値・現状整理」「価値に基づく空間整理（ゾーニング）」「基本方針」「具体的方策」という、価値を起点とした論理的な構成（価値→現状→戦略→方策）へと再構築する提案を 2025 年度第 2 回適正利用・エコツーリズムワーキンググループ（以下、エコツーリズム WG とする。）において行った[2]。これにより、長期的な方向性と具体的な方策（提案制度）の 2 つに区別し、論理性や理解しやすさが向上するものと考えられる。

エコツーリズム戦略の見直し構成（案）を**表 2-1** に示す。見直し構成案において、IP 全体計画の要素を盛り込む項目として想定されるのは、以下となる。

「２．知床の観光・エコツーリズムをめぐる現状と課題」

「2-1 守り、伝えるべき知床の価値」において、IP 全体計画で抽出されたストーリーを盛り込む。

「３．価値に基づく空間整理（ゾーニング）」

「3-2 ゾーン区分と価値の整理」において IP 全体計画で抽出された知床の価値を、戦略の空間的整理（ゾーニング）に落とし込む。

---

[2] 2026 年 3 月 10 日開催 第 2 回エコツーリズム WG
資料 3-1 知床エコツーリズム戦略の見直しの方針

表 2-１エコツーリズム戦略の見直し構成（案）

第Ⅰ部	１．はじめに
	２．知床の観光・エコツーリズムをめぐる現状と課題 2-1 守り、伝えるべき知床の価値 (1)自然に関する価値 (2)人と自然の関わりについての価値 (3)非日常性から得られる価値 2-2 観光やエコツーリズムの現状と経緯 2-3 観光やエコツーリズムをめぐる課題 (1)現在生じている課題 (2)今後予想される課題
	３．価値に基づく空間整理（ゾーニング） 3-1 ゾーニングの基本的考え方 3-2 ゾーン区分と価値の整理 3-3 ゾーンごとの基本的な利用の方向性
	４．戦略の目的・対象・関係者・実行体制等 4-1 戦略の目的 4-2 戦略の対象 (1)戦略の対象となる地域 (2)戦略の対象となる活動 (3)戦略の対象となる来訪者 4-3 既存の法律、制度、ルール、およびこれらと戦略との関係
第Ⅱ部	５．基本方針 5-1 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上 5-2 世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供 5-3 持続可能な地域社会と経済の構築
	６．具体的方策 6-1 利用コントロール 6-2 守るべきルールの設定と指導 6-3 情報の発信 6-4 ガイドの育成とガイド利用の推奨 6-5 文化的資産等の活用 6-6 利益の還元 6-7 施設整備 6-8 モニタリング 6-9 リスクマネジメント 6-10 知床の価値を伝えるストーリーの伝達
	７．戦略の実行体制 7-1 検討会議及び WG の構成と運営 7-2 エコツーリズムを含む観光利用に関する政策決定手順
	８．見直しの手法、期間

2. ストーリーの反映（2-1 守り、伝えるべき知床の価値）

ストーリーブックで策定された「自然と生命」「地形と景観」「歴史と文化」「暮らしと産業」の4つのカテゴリと、以下の 12 のストーリーの要素をエコツーリズム戦略の「守り、伝えるべき知床の価値」に反映させることがのぞましい。一方で、エコツーリズ戦略は世界遺産地域における観光分野のマスタープランであり、特定の項目のみ分量を大きくしたり説明が詳細となることは適当ではない。反映にあたっては、ストーリーのすべてを反映させるのではなく、要約や簡潔さにも留意する必要がある。ここでは、各カテゴリを中心に以下のように取りまとめる案を提案する。詳細については、関連計画として、IP 全体計画を参照する体裁とするのが適当であろう。

- **自然と生命**：流氷からはじまる海・川・森のサイクル、陸・海・空の自然の王者に囲まれた生態系、ありのままの自然とヒグマとの共存。
- **地形と景観**：火山活動による隆起、カムイワッカ湯の滝などの奇跡のアクティビティ、急峻な地形が生み出す絶景と強風。
- **歴史と文化**：オホーツク人やアイヌ文化など力強く生きてきた人々の軌跡、「りょう」を生業とする誇り、100 平方メートル運動による自然再生。
- **暮らしと産業**：海の幸と山の幸、ツーリストとローカルが出会う温泉めぐり、四季折々の暮らし。

3. 価値に基づく空間整理（ゾーニング）（3-2 ゾーン区分と価値の整理）

2025 年度第 2 回エコツーリズム WG においては、エコツーリズム戦略の見直しにおいて、ゾーニングの考え方を取り入れることが方針として示された[3]。ゾーニングは、提案制度に基づく新たな利用を検討する際に、地区ごとの望ましい姿や利用の方向性を示す指針として位置づけられる見込みである。

一方、2018 年度に「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」において策定された「ゾーニングとイメージ（案）」は、策定から時間も経過し、自然環境の変化や観光ニーズの多様化により、現状との齟齬も指摘されている。エコツーリズム WG においては、これに対応するため、特定の利用形態や利用者層を前提とした従来の区分を見直し、ストーリーブックで整理された知床の「価値」を共通の出発点とし、各ゾーンの価値を守りながら伝える多様な提案を柔軟に検討できる「価値に基づくゾーニング」へと再構成する方向性が提案された。

本業務においては、「ゾーニングとイメージ（案）」の要素や趣旨を踏まえつつ、ゾーニング区分を見直した（**図 2-1**）。見直しにあたっては、細分化や重複を避ける観点からゾーン区分の数を減ら

---

[3] 2026 年 3 月 10 日開催 第 2 回エコツーリズム WG
資料 3-2 知床エコツーリズム戦略に盛り込む「ゾーニング」について

し、公園外や海域も含むゾーン区分を提案した。IP 全体計画で提案されたストーリーとゾーン区分との関係性を整理し、どこでどのような価値を伝えるべきかを示す指針をとりまとめたのが**表 2-2** である。

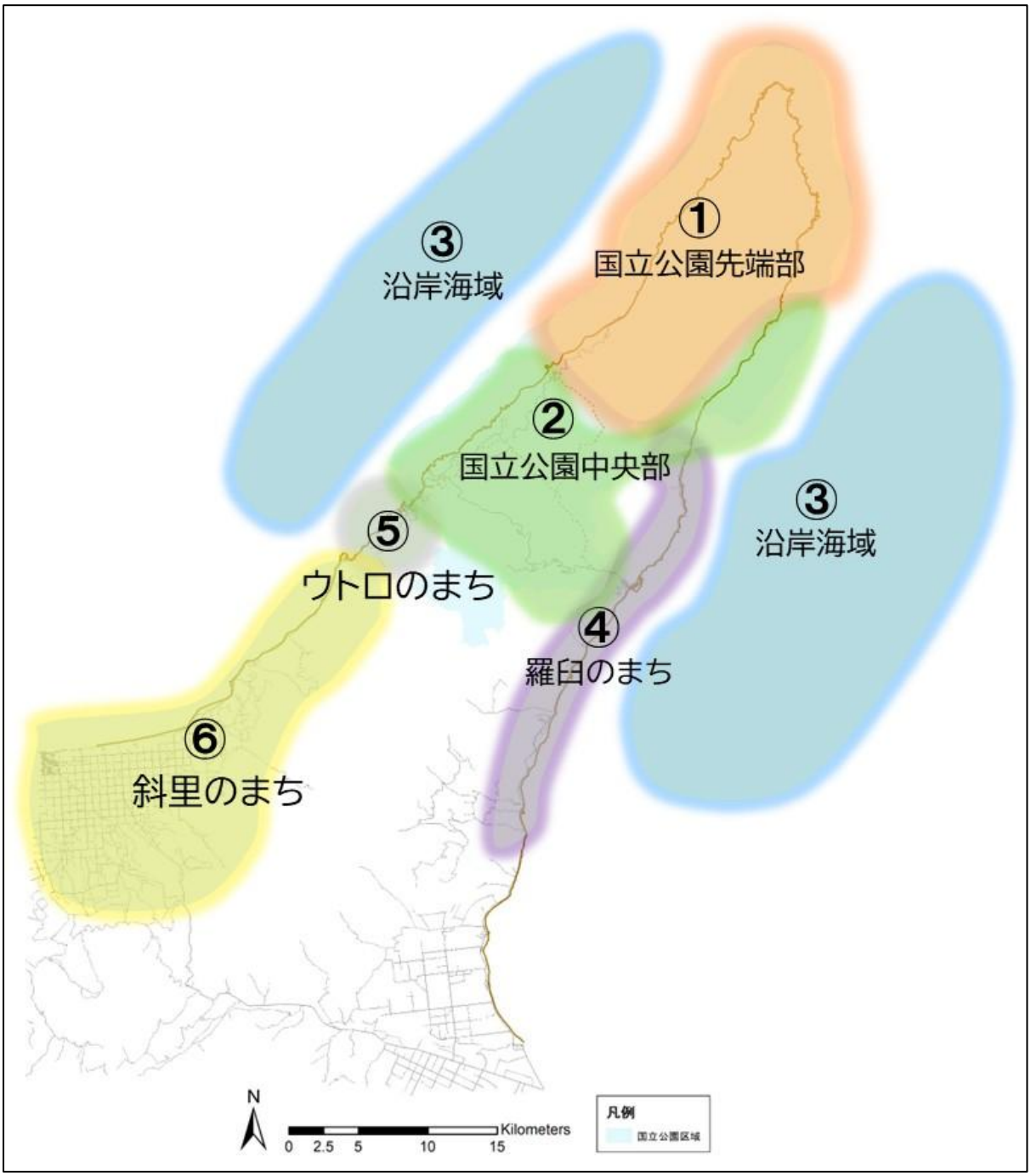


図 2-1. IP 全体計画で提案したゾーニング区分.

表 2-2. IP 全体計画におけるストーリーとゾーン区分の関係性

ストーリー			どこで伝える？	どのように伝える？	最適な時期は？	誰に伝える？
story1 自然と生命	1―1	流氷からはじまる海・川・森のサイクル その豊かな恵みをいただく	②国立公園中央部 ③沿岸海域 ⑥斜里の町	▹流氷体験ツアー ▹観光船の乗船 ▹漁船の水揚げ見学 ▹サケ・マスの遡上観察	冬-流氷期に 秋-サケマスの遡上期 国立公園の	・ツアーやプログラムに参加する積極的な国立公園の利用者
	1―2	陸のヒグマ・海のシャチ・空のオオワシ 自然の王者に囲まれ、人間の小ささを実感する	③沿岸海域 ④羅臼のまち	▹観光船 ▹漁港市場見学 ▹昆布番屋の体験ツアー	全期間を通じて	・野生動物の愛好者やカメラマン ・インバウンド
	1―3	「ありのままの自然」がくれる気づき ヒグマとヒトの共存をともに考える場所	②国立公園中央部	▹夜の星空観察ツアー（知床五湖） ▹原生的な河川風景（ルサ園地） ▹ビジターセンターの展示や解説	夏-星空の観察適期 秋-サケマスの遡上期	・都市部からの来訪者 ・プログラム等への参加者
story2 地理と景観	2―1	火山活動により海底から隆起した山々 その軌跡を自らの足で確かめる	②国立公園中央部 ⑥斜里のまち	▹知床五湖トレッキング ▹知床連山登山 ▹羅臼湖トレッキング	夏-登山適期	・登山やトレッキングの愛好家 ・アクティブに体験を求める層
	2―2	火山が生んだ奇跡のアクティビティ 「カムイワッカ湯ノ滝のぼり」	②国立公園中央部	▹沢登りアクティビティ（カムイワッカ） ▹硫黄採掘の痕跡に触れる（硫黄山登山）	夏-登山適期	・登山やトレッキングの愛好家 ・アクティブに体験を求める層
	2―3	人間の五感すべてに訴えかける 山・川・海、そして太陽のつながり	①知床半島先端部 ②国立公園中央部	▹知床岬トレッキング、シーカヤックツアー ▹半島の地形が生み出す強風体験（ルサ園地） ▹知床横断道路のドライブ	夏-登山適期	・登山やトレッキングの愛好家 ・ドライブなどの通過型の利用者
story3 歴史と文化	3―1	オホーツク人、アイヌ文化、津軽藩士… 力強く、しなやかに生きてきた人々の軌跡	④羅臼のまち ⑤ウトロのまち ⑥斜里のまち	▹羅臼町郷土資料館の展示 ▹チャシコツ岬上遺跡 ▹知床博物館の展示、ねぷたまつりへの参加	初夏（ねぷたまつり） 全期間を通じて	・歴史や文化に関心のある層 ・悪天候などの代替利用
	3―2	厳しい自然のなかで「りょう」を生業とする漁師と猟師 その誇りと生命力をいただく	④羅臼のまち ⑤ウトロのまち ⑥斜里のまち	▹漁港市場（羅臼） ▹道の駅でのお土産、鮮魚購入 ▹地元の飲食店の利用	全期間、旬や収穫期にあわせて	・飲食や買い物などのライト層 ・ドライブなどの通過型の利用者
	3―3	人間が開拓した土地を、原生の森に戻す 「しれとこ100平方メートル運動」	②国立公園中央部 （ホロベツ園地）	▹知床100平方メートル運動ハウスの展示 ▹森づくりの道の散策 ▹知床サスティナブルフェス ▹森の集い（植樹祭）の参加	秋-イベントや植樹祭 全期間を通じて	・歴史や文化に関心のある層 ・自然保護への貢献に関心のある層
story4 暮らしと産業	4―1	知床の生命のサイクルとつながる 海の幸と山の幸を味わう最高の贅沢	④羅臼のまち ⑤ウトロのまち ⑥斜里のまち	▹漁港や海岸線の風景、斜里平野の農耕風景 ▹道の駅でのお土産、鮮魚購入 ▹地元の食料品店、飲食店の利用 ▹ウトロ鮭テラス	全期間、旬や収穫期にあわせて	・飲食や買い物などのライト層 ・ドライブなどの通過型の利用者 ・宿泊者
	4―2	ツーリストとローカルが出会う温泉めぐり 暮らしや地質・風土を肌身で感じる	②国立公園中央部 ④羅臼のまち	▹沢登りアクティビティ（カムイワッカ） ▹熊の湯入浴、岩尾別温泉入浴	全期間を通じて	・キャンパーや車中泊 ・長期滞在の利用者
	4―3	オホーツク文化から続く四季折々の特徴的な暮らし 訪れるたびに知らない体験ができる	①知床半島先端部 ⑤ウトロのまち ⑥斜里のまち	▹知床岬トレッキング、シーカヤックツアー ▹ウトロ鮭テラスでの漁獲見学 ▹道の駅でのお土産、鮮魚購入 ▹地元の食料品店、飲食店の利用	夏-先端部利用の適期 全期間、旬や収穫期にあわせて	・アクティブな体験を求める層 ・飲食や買い物などのライト層

第３章　業務実施計画の作成及び打合せの実施

本業務を実施するにあたり、業務の目的、業務実施の基本方針、業務内容、業務の実施方法を定めた、業務実施計画書（**巻末資料７**）を作成し、環境省担当官へ提出した。

また、業務を行うにあたり担当官との打ち合わせを、7 月 24 日、8 月 18 日、10 月 3 日、10 月 24 日、12 月 18 日、2026 年 1 月 13 日、2026 年 2 月 6 日の計 7 回実施した。業務打ち合わせでは、業務全体の仕様確認やスケジュール管理、先行事例に基づくストーリーブックのストーリー構成やデザイン方針の策定、地域コミュニティの醸成を目的としたワークショップの企画・運営、および実施後の振り返りと次年度に向けた展開について協議を行った。とりまとめた、各打ち合わせ記録は**巻末資料８** に収録した。

表 3-1 打ち合わせ記録

打ち合わせ	開催概要	議事次第
第 1 回	日時：2025 年 7 月 24 日（木） 場所：知床世界遺産センター会議室	1. 業務全体の確認・スケジュールについて 2. ストーリーブック制作の方向性について
第 2 回	日時：2025 年 8 月 18 日（月） 場所：オンライン	1. 本事業の概要とねらい 2. 監修のご依頼について 3. ストーリーブックの構成について 4. 今後の取り組みと進め方
第 3 回	日時：2025 年 10 月 3 日（金） 場所：知床世界遺産センター会議室	1. 令和７年度知床国立公園ストーリーブック作成にかかる事前調査業務（準備業務）の報告書に基づく「ストーリーブック」制作の方向性について 2. ストーリーブックのモニターについて 3. 今後の進め方
第 4 回	日時：2025 年 10 月 24 日（金） 場所：知床世界遺産センター会議室	1. ストーリーブックの構成について 2. 第 1 回ワークショップ開催（11/19）について
第 5 回	日時：2025 年 12 月 18 日（木） 場所：オンライン	1. ストーリー構成（第 2 章）の修正方針 2. 今後の作業スケジュール
第 6 回	日時：2026 年 1 月 13 日（火） 場所：オンライン	1. 第 2 回ワークショップ開催内容について 2. 今後のスケジュール
第 7 回	日時：2026 年 2 月 6 日（金） 場所：ゆめホール知床	1. 第 2 回ワークショップの振り返りについて 2. 次年度の計画および展開について

環境省　北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所　請負事業

事業名：
令和７（2025 年度）知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定等及び
知床の魅力あるストーリー検討業務

事業期間　：令和７（2025）年７月１日～令和８（2026）年３月 23 日
事業実施者：公益財団法人　知床財団
〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531
知床自然センター内

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを用いて作製しています。